

総合・国際	バグダディ容疑者 死亡	4面	東 信	佐久の催しで募金活動
スポーツ	ラグビー、南アフリカが決勝へ	13面	北 信	被災者向け情報冊子に
J3	AC長野 0-0 讃岐	17面	中 信	松本で大鹿歌舞伎公演
なでしこ	AC長野 1-4 日テレ	17面	南 信	原中生が朝鮮学校訪問
社説	美ヶ原道路問題／参院選格差訴訟	5面		地域ニュース22・23面

2019年(令和元年)

10月28日

月曜日

台風19号 関連記事

警戒区域の見直し急務	2面	五郎兵衛用水に土砂流入	26面
災害への備えどうする	11面	少しでも判断間違えば	27面
国土地理院の航空写真	24面		25面にも

台風19号 生活情報 25・地域面



1873年(明治6年)創刊  
 発行所  
 信濃毎日新聞社  
 長野市南町 〒380-8546  
 長野市南町 657番地  
 電話(026)  
 受付236-3000編集236-3111  
 販売236-3310広告236-3333  
 松本本社 〒390-8585  
 松本市中央 2丁目20番2号  
 電話(0263)  
 代表32-1200 報道32-2830  
 販売32-2850 広告32-2860  
 ©信濃毎日新聞社2019年

果実加工  
この道100年

壽高原食品株式会社  
KOTOBUKI  
Highland Food co., Ltd.

天気

最高気温	最低気温	飯山	19.7	7
		長野	19.6	6
		大町	17.5	5
		松本	19.5	5
		上田	21.7	9
		佐久	19.7	7
		諏訪	17.6	6
		木曽	20.6	6
		伊那	20.9	6
		飯田	20.8	6

5%以上 5%未満  
23面に詳しい天気情報

# 上田電鉄別所線 全線復旧「1年で」

## 目標実現へ費用確保課題

上田電鉄(上田市)が、台風19号で被災した別所線(上田別所温泉、11.6km)について、1年後をめどに全線復旧を目指す。千曲川の増水で鉄橋が部分的に崩壊。同社は一部区間で代行バスを走らせ別所線を再開する一方、全線復旧に向け国土交通省と上田市、同社による調整組織も発足した。別所線は一時廃線の危機にあったものの、近年は上田の観光やイベントとの連携も活発化し、地方私鉄の中でも存在感を増していた。市民や鉄道ファンからも支援に動きだしている。



別所線鉄橋周辺では27日も、千曲川左岸堤防の緊急復旧工事が続いた。トラックが運んできた土をショベルカーが整えていく。約200mほどにわたる堤防が崩壊し、崩落した鉄橋を見ていた。崩落現場を撮影していた大

### 国・市と調整組織 市民・ファン支援動き

千曲川左岸側で崩壊した別所線の鉄橋。ショベルカーによる堤防の緊急復旧工事が行われている。27日午後1時34分、上田市



前8時ごろ。上田電鉄は15日から、鉄橋を含む上田-上之郷間は代行バスを走らせ、下之郷-別所温泉間は鉄橋による運行を再開した。上田と別所温泉を結ぶのは上下18本で、被災前と比べ半数近くに減った。所要時間は20分程度長くなり、下之郷駅での乗り換え時間を含める。ダイヤは50分余から70分余にかかると見られる。上田-上之郷(東御市)を運休し、上之郷-別所温泉(上田)は、上田電鉄が上田-上之郷間の周辺道路も朝夕は交通量が増し、従来よりも混雑し

赤羽一嘉園交相は昨日の閣議後会見で、上田電鉄などを念頭に「経営状況が脆弱な鉄道会社への支援は大きな課題の一つ」として「一橋が流された場合は物理的に復旧・復興に時間がかかる。しっかりと受け止めて(支援を)検討する」と述べた。20日には同省の水滸智鉄道局長が別所線の現場を視察している。

さらに早期復旧を希望しているのが、地元市民や鉄道ファンだ。住民団体「別所線の将来を考える会(上田市)」は復旧に向けた署名活動や、インターネット上で資金を募るクラウドファンディングの検討を進めている。

別所温泉旅館組合は20日、別所線復旧の募金や署名を募るイベントを別所温泉駅で開く。倉沢清之介組合長は「急に開いたのに、多くの市民が駆け付けてくれた。5000人分の署名と募金4万円を28日に上田電鉄に届ける。ネット上でツイッターなどに「がんばれ別所線」といった書き込みが相次ぐ。上田市の土屋隆一市長は「市民や観光客に愛される重要な路線。なすすべはない」と積極支援に前向きな姿勢を示している。

(古志野拓史、井手拓朗、声田雄樹)

# 松本-神戸線 FDAが就航



県営松本空港に到着した神戸空港からの初便=27日午前10時44分

フジドリームエアラインズ(FDA、静岡市)は27日、県営松本空港(松本市)と神戸空港(神戸市)を結ぶ新定期路線「松本-神戸線」の運行を開始した。神戸線は1日往復で、飛行時間は約1時間。小型ジェット機のエンブラエル700(76席と、同175・84席)で運航する。当面のダイヤは神戸発が午前9時55分、松本発が午後0時20分。運賃は片道で大人普通が2万5千円。インターネットで予約・購入すると、1万円前後になる割引サービスもある。

県などはつくる利用促進協議会は松本空港でセミナーを開催。神戸から到着した乗客に記念品を配るなどした。

FDAの神戸空港への就航は、同空港の発着枠が1日60回から80回に拡大されるなど、規制が緩和されて実現した。同社はこの日、新たに神戸-出雲線も就航。12月20日には神戸-高知線の就航が控える。

長野広域連合は27日、長野県須坂市など6市町村の可燃物処理施設「ながの環境エネルギーセンター」内のビット=27日

# 長野・須坂市 災害ごみ きょうから搬入休止

大量の災害ごみが発生し、処理能力を超える量が持ち込まれているため、ビットが満杯になると、一般のごみを受け入れられなくなる恐れがある。このため、長野、須坂市は28日から、同センターへの災害ごみの搬入を休止する。広域連合はホームページで、分別の徹底などによる家庭ごみの排出抑制を呼び掛けている。

同センターの焼却処理能力は1日最大405t。これに対し、被災後の15日以降は1日平均約580tが搬入されていた。2000tをたためるビット内のごみの保管量は少しずつ増え、25日時点で2720t(94%)に、広域連合は同日、長野、須坂市市など6市町で975tが避難

に災害ごみの搬入を一時見合わせよう申し入れた。長野市は市内3カ所、須坂市は1カ所に設けた「仮置き場」に災害ごみをいったん集め、同センターに運んでいた。仮置き場の広さに余裕がある須坂市は当面、集めた災害ごみを仮置き場に留め置く。長野市は、3カ所のうち、井ノ井運動場(井ノ井町)と青垣公園運動場(松代町西条)は7~8割が埋まっているため、県を通じて県内外の施設に受け入れを打診している。

県災害対策本部によれば、台風19号による県内の人的被害は27日午前10時時点で、死者4人、行方不明1人、重傷7人、軽傷126人。全壊や床上浸水などの住宅被害は9267世帯、長野市や須坂市など6市町で975tが避難

# 千曲川決壊 漬かった街くっきり 国土地理院の13日撮影航空写真



台風19号による記録的な大雨の影響で長野市穂保の千曲川堤防が決壊した13日の一帯の航空写真を、国土地理院(茨城県つくば市)がホームページで公開している。写真を組み合わせると、堤防の決壊部分や、茶色く濁った水が住宅が建ち並ぶ集落

なを広い範囲を覆う当時の様子がはっきりと分かる。写真は13日午前、国土地理院の測量用航空機を使い、千曲市から下高井郡山ノ内町にかけ、千曲川流域の計128地点の上空から撮影した。このうち午前11時39分撮影の写真では、堤防が切れ、大きく口を開けた部分や、水没した北陸新幹線(長野経由)の車両が見取れる。国土地理院は、大規模災害時被災状況の確認や復旧作業に役立てるため、こうした撮影をしている。

(国土地理院のウェブサイトより作成)

# 少しでも判断間違えば

## Uターン直後に濁流 住宅へ避難

### 水位低下後 未明に救助

台風19号に伴う千曲川支流、滑津川の氾濫で、佐久市中込の中島正人さん(81)が車に乗って避難中に死亡した被災現場。同様に車ごと濁流にのまれた市民、その救助に当たった消防隊員らが、当時の緊迫した状況を証言する。

#### 証言

### 佐久・石神交差点で何が

激しい雨が降り続いていた。12日午後6時すぎ。市内の会社員男性(48)が氾濫に巻き込まれたのは、被災していないか気になって実家の様子を見に行った帰り道だった。

国道141号を北上し、中込大橋南の石神交差点で警察官から国道は通れないと聞き、県道小諸中込線へと左折。市下水道管理センター近くまで約1時走った辺りで、先行していた車5、6台が詰まっていた。「なんで止まるんだろ」と順にUターンするのを横目に進むと、通行止めの

看板があった。センターラインのない狭い道を男性もUターンして間もなく、滑津川の方から茶色い水が押し寄せ、アクセルがほとんど効かなくなった。道路脇の住宅敷地に突っ込んだ。身の危険を感じた。窓から外に出て泥水に膝上まで漬かり、別の車の屋根に上った。薄暗い中、水位がどんどん上がっていく。同様にそれぞれ



濁流で路盤が削られた杉の木地区の被災現場。左は下水道管理センター＝13日、佐久市中込

人との車庫の屋根上に移り、さらに隣の住宅玄関の屋根に上って2階の窓を割り、中に入

った。携帯電話で助けを求めた。「寒くないですか」と3人で励まし合った。

佐久広域連合消防本部に被災現場の杉の木地区から救助要請があったのは午後6時33

分。急行した救助隊員からも「すごい水の流れ」「濁流が渦を巻いている」との無線が飛び込んできた。冠水地帯の手前に現場指揮本部を設け、合同で救助に当たった県警機動隊の馬力の強い船外機付きボートで救助

を試みた。だが、流れが強すぎてかじが取れない。「隊員が流されたら救助活動が終わってしまう」。夜通し指揮した同消防本部指揮課長の土屋勉さん(53)は水位が低くなるのを待つ方針に切り替えた。「この家が流されたらどうしよう」。救助を待っていた会社員男性の脳裏に、東日本大震災の津波で家々が流される映像が浮かんだ。

水位が下がり始めたのは翌13日午前0時ごろ。救助隊員は建物の屋根上にいる女性2人を確認した。さらに水位が膝上くらいになったのを見て、午前1時すぎに助け出した。続けて住宅内に避難した

3人を救出。その後、市下水道管理センターに避難していた8人も救助した。「最善を尽くしたつもりだが、状況は最悪だったと土屋さん。「亡くなられた方もいて、無念」と悔しさをにじませる。「少しでも判断を間違えていたら、災害でトラウマ(心的外傷)を抱える人の気持ち

12日夕の通行止めの状況



## 千曲川氾濫